



公益財団法人大阪YWCA

2022年度（令和4年度）

（2022年4月1日～2023年3月31日）

事 業 報 告

はじめに

いつも大阪YWCAを様々な形でお支えいただき、誠にありがとうございます。

長かったコロナ禍の出口がようやく見え始めた2022年となりました。

専門学校の日本語学科では、2021年度1年間は、留学生の入国がほぼ不可能でしたが、2022年の4月は久しぶりに海外からの新入生をたくさん迎え、にぎやかにスタートを切ることができました。日本語夏期集中コースは対面での実施がかない、中国帰国者支援事業でも、1年を通してほぼ対面での授業が可能となりました。そして、3年ぶりに医療通訳研修会も開催することができました。コロナ禍の置き土産ともいえるオンラインを使っての講座やプログラムも定着しつつあり、対面のみであった講座を、オンライン受講、オンデマンド受講なども取り入れ、遠方からの受講生を得るなど、新しい展開も見られました。

一方、ボランティア・社会貢献活動部門では、運営委員の担い手不足などから委員会の数をしばっての活動を余儀なくされています。また、総合福祉施設であるシャロン千里の入館制限も続き、千里での活動の場が未だ制限されている状況です。クラスターを防ぎ、高齢者の命を守る措置を尊重しつつ、活動を再び活性化させるための知恵と工夫が求められました。そのような状況の中でも、インターンシッププログラムを始め、若い女性のリーダーシップを養成するための様々な活動がなされたことは喜ばしいことでした。会員減少など課題が多くある中で、多世代が協働し、ミッションにかなったYWCAらしい活動を続けるにはどうあればよいのかを考え、進めていくために、運営委員会改革ワーキングチームを立ち上げました。まずは運営委員と運営委員会の役割とあり方を考え直し、目的に沿った組織づくりに取り組みたいと考えています。

更に、理事会では、理事、運営委員、職員が一体となって、*組織の若返り、*安定した経営基盤、*時代と地域のニーズに合った事業・活動の展開、といった喫緊の課題に取り組むべく、合同会議の実施を計画中です。コロナ禍をきっかけに様々な課題が顕在化してきたことを、見直しと改革のチャンスととらえ、会員、職員が一丸となって取り組んでゆければと願っています。

最後になりましたが、今後の歩みを強めていくためにも、皆さまのご支援、ご指導のほどを、どうぞよろしくお願い申し上げます。大阪YWCAの事業・活動にご参加いただいた皆様、さまざまなご支援、ご協力、ご寄付を寄せて下さった皆様、講師、ボランティア、会員、お心を寄せていただいたすべての皆様への深い感謝と共に、2022年度の事業報告書をお届けいたします。

公益財団法人大阪YWCA

常務理事・総幹事 中山 羊奈

目 的

キリスト教の基盤にたち、女性と青少年の力を集め、リーダーシップを養成し、すべての人にとっての正義・平和・健康・尊厳・自由・持続可能な環境を実現することを目的とする。

基 本 方 針

1. 非核・非暴力による平和の実現のために積極的に行動する
2. 多様性を認め合い、出会いの中で育ち合い、変革を担う人材を育成する

<日本YWCA第33総会期>

ビジョン 女性がリーダーシップを発揮し、人権・平和・環境を大切にする社会

ミッション 若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

バリュー

1. キリスト教基盤

すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方に倣(なら)って行動します。

2. 平和・環境

アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3. 人権

人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくります。

4. セーフスペース

会員(ボランティア)が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

2022 年度標語

平和、平和、遠くにいる者にも近くにいる者にも
イザヤ書 57 章 19 節

I. 教育事業

1. 専門学校事業

(1) 全体

新型コロナウイルス感染症による影響で減少していた受講生・留学生数は回復しつつあることが実感できた。オンラインも定着し、セミナー、講座、授業で、オンデマンドやハイブリッド形式でも柔軟に対応した。

2024 度には、日本語教育機関の認定制度や「登録日本語教員」の資格創設が施行されようとしている。日本語教育をとりまく状況が大きく変わろうとしており、今後の動向を見守っていききたい。

(2) 日本語学科／本科・日本語第二学科

全日制総合日本語コース（本科）は、モーニング会話クラスや午前中のみ聴講生も含め、春期 4 クラス 32 名、秋期 5 クラス 62 名であった。入国制限緩和により、年度始めには留学生がほぼそろった状態でスタートできた。

今年度新たに、文化庁補助事業「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」を実施。入国前の留学生に対し、昨年度作成した「オンライン会話教材」を使って、オンライン授業を計 16 時間行った。また、同事業の実践報告会と最終報告会（全国専門学校日本語教育協会主催）において事例発表を行い、高い評価を得た。

進路面では、早い段階から進路相談や出願手続きのサポートなど、きめ細かな指導を行なった。学校行事としては、お出かけランチや校内スピーチコンテスト、日本文化体験（浴衣の着付け、七夕飾り）を実施。また校外学習では箕面大滝で自然を満喫したり、クリスマスパーティーで大宮保育園園児によるクリスマスページェントを楽しんだりと少しずつコロナ禍以前の状態に戻ってきた。オンラインホームカミングデーも卒業年度を分けて数回実施。遠方にいる卒業生とも交流できた。

(3) 日本語学科／別科

イブニングコースは春期 4 クラス、秋期 3 クラスを開講した。日本の企業で働いている外国人がほとんどだが、日本人の配偶者や永住者などが受講した。国籍は中国、台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、タイ、ミャンマー、ネパール、フィリピン、モンゴル、トリニダード・トバゴ、オーストラリア、アメリカ、フランス、と多彩で、年齢も 10 代から 50 代まで幅広い層が在籍した。日本語能力試験準備コースは春期、秋期とも N1、N2 を開講した。こちらも国籍は多彩で、中国、韓国、ベトナム、シンガポール、モンゴル、アメリカ、フランス、イギリスの学生が 7 月、12 月の試験に向けて意欲を持って受講した。夏期集中コースは、入門と上級の 2 クラスを開講した。中国、台湾、香港、ニュージーランド、フランスの 10 代から 60 代の学生が参加した。オプションプログラムは書道体験を行った。

プライベートレッスンについては、グループレッスンには参加できない学生にそれぞれのスケジュールに合わせてレッスンを提供している。多様なニーズにこたえてオンラインでも対応した。

(4) 奨学金

今年度も大阪YWCA奨学金、大阪YWCA留学生里親の会奨学金、鈴木保奨学金それぞれの選考及び支給を行った。今年度から奨学金委員会がなくなったため、財務委員会が主体となって選考、授与をおこなうこととなった。春学期は大阪YWCA奨学金を 2 名に、秋学期は上記 3 つの奨学金をそれぞれ 1 名の留学生に支給することができた。昨年度までは月一回のランチスープの日に授与式を行い、多くの会員の方に奨学生の日頃の成果や将来の夢についてのスピーチを聞いていただいていたが、今年は日程が合わず、会長、校長をはじめ、専任、非常勤講師、学校職員が授与式に連なり、奨学生たちの将来の抱負に耳を傾けた。多くの方々のご協力、ご寄付により、奨学金の運営、支給をしている。これからも、志高い勤勉な留学生を一人でも多く経済的に支援していけるよう専門学校全体で支えていきたい。

2. 日本語教師を養成する事業

(1) 日本語教師養成講座

2024 年 3 月末に閉講するため、今年が最後の入学期であったが、2024 年から施行される国家資格「登録日本語教員」への道筋の様子見と、長期間の在学が必要とされる養成講座への入学控えが重なり、入学者は 3 名であった。

4 月から教養・基礎コース、実践・応用コースともに授業を開始し、ほとんど対面で授業を行うことができた。毎年秋学期に実施していた土曜日講座「生活者としての外国人に『ことば』で寄り添う日本語支援者講座」（全 10 回）を春学期に変更して一般に広報したところ、昨年の受講延べ人数の 1.5 倍の受講生が集まった。多くは現役の教師で、学びなおしの機会や新しい知識を得るために意欲的な人たちである。今後このような層へのアプロー

チとそのニーズを積極的に模索していく必要がある。

単位が満たないため修了できない残留受講生を極力減らすために、こまめに受講を促す連絡をとりつつ、応用コースでは教育実習の学習者役として日本語学科の留学生に協力してもらい 10 名が無事に課程を終えることができた。

(2) 日本語教師会

新型コロナウイルス感染拡大の影響下、自治体・国際交流団体等での日本語ボランティア向け講習会や日本語教室への講師派遣は、まだ停止しているものもあるが3年ぶりに再開したところもあり、回復傾向にある。(全16件)。また、昨年度に引き続き、大阪市教育委員会「新たな識字・日本語学習体制検討会議」メンバーに講師を派遣した。

大学等では、昨年に引き続き、トラベルジャーナル学園の日本語授業(一部、Webexによるオンライン)のほか、企業の日本語研修にも講師を派遣した。

日本語コースでは、「ビジネス日本語上級クラス」(春期・秋期)、「同 特別クラス」を実施した。

日本への外国人入国の増加にともない、地域の日本語教室も含めた多様な日本語ニーズへの対応を、自治体等と連携しながら継続していきたい。

教材開発では、Jリサーチ出版から「くらべてわかる日本語表現文型辞典 初中級編」が6月に出版された。また「使ってはいけない日本語」(1998年4月～2003年1月に研究会として実施)の出版を目指してプロジェクトを開始した。

講座・セミナーでは、8月に、昨年度の完全オンラインから対面併用に戻した「夏の日本語教育セミナー」(ハイブリッド)を実施、イベント講座情報サイトPeatixによる広報を導入して、第1回23名、第2回33名の多数の参加者を得た。その他、「日本語教育能力検定試験対策講座」(ハイブリッド・オンデマンド)、「日本語初級/中級文型の教え方講座」を行った。また初の試みとして「日本語教育能力検定試験対策講座」オンデマンド受講者対象に、講師による個別フォローアップの時間を設け、一人での学習継続の一助とした。

研修会・研究会関係では、「文法・構文研究会」、大阪YWCAで初めて教える会員を対象にした「新人研修プログラム」を実施した。

3. 生涯学習の各種クラス・講座

「子どもと子どもの本の講座」は、「子どもと本をむすぶコース」として6ユニットと「児童文学をたのしむ特別講座」に分けて実施した。「子どもと本をむすぶコース」ではユニット1「子どもにことばを」とユニット2「赤ちゃんに絵本を」で基礎的な事を学び、ユニット3「子どもに絵本を」では読み聞かせについて学んだ。ユニット4「子どもにお話を」ではストーリーテリングについて学び、ユニット5「子どもとわらべ唄」では季節や年代に応じてのわらべ唄を理解しながら楽しみ、ユニット6「子どもに本を手渡すために」ではブックトークや本の選び方を学んだ。「児童文学を楽しむ特別講座」は8回開催した。毎年恒例となっている上田由美子講師の「ミリー・モリー・マンデーのお話しのつづき」や「クリスマスのおはなし」も盛況であった。2月には「アリソン・アトリーの作品を読む」、中西美季講師のアメリカ絵本の系譜「モーリス・センダックのしごと」、3月には村川京子講師の「せなけいこの世界」のお話を聞いた。年度初めの4月には講座開講前のプレイベントとして「大人のための春のおはなし会」を開催した。

ランゲージコースの春期は韓国語上級、ベトナム語初級、ベトナム語中級の3クラス編成で開講したが、秋期になり受講者の減少でベトナム語中級のクラスは不成立となった。韓国語もベトナム語も入門レベルの受講生の申し込みがあったが、レベルの同じ受講生が揃わないためクラス授業はできず、それぞれプライベートレッスンを受講した。次年度の新たな受講生を獲得することを目的に、3月に韓国語特別講座「いきいき会話表現」を開催した。

俳句講座は高浜虚子の孫、松田美子講師の指導のもと、毎月紙上の句会を行っている。コロナ禍で外に出る事がままならない受講生が増え、一同に会しての句会や吟行もできない状況が続いている。紙上の句会の良さもあるが、句会はやはり対面でやりたい受講生も多く、今後について考えなくてはならない時期がきている。

II. 平和・人権・環境等国内外の社会問題についての学習及び普及啓発と人材養成事業

1. 人材育成・研修事業

対人援助者が現場で支援する上で必要となる知識やエンパワーの姿勢を学ぶソーシャルワークセミナーは「生きづらさ支援のためのソーシャルワークセミナー」と題して、4名の専門家を招き、通年で5回の講座を実施し

た。気になる話題に単発でも受講してもらえるよう日程や内容を選び、外部講師の協力のもと、コロナ禍で苦しい思いをしている人々に寄り添うための実践を学ぶ講座となった。基本、対面で開講することとし、従来の紙媒体のちらし配架だけでなく、イベント講座情報サイト Peatix や Facebook 広告を利用して多くの方の目に触れてもらえるよう心掛けた結果、多くの熱心な受講生に恵まれた。この講座は大阪市ボランティア活動振興基金助成で実施された。

企業からの依頼を受け、コーチング、マネジメント等をテーマとした研修の提供も行った。

2. 平和・環境についての学習と啓発事業

ピースフェスティバルは、高賛侑監督の新作ドキュメンタリー映画「ワタシタチハニンゲンダ！」の上映と、高監督を囲んでのトークセッションを実施した。「ワタシタチハニンゲンダ！」は、原点の朝鮮人差別だけではなく難民や入管等種々の政策の問題をインタビューや映像を通して、赤裸々に描き出す内容である。参加者からは、「現代の日本に起こっていることにショックでとても恥ずかしい」、「心にとってもささった。アウトプットして忘れないようにしたい」との感想が寄せられた。映画上映後のトークセッションでは、まず、高監督から映画製作に至った熱い思いを伺った。更に、様々な活動に携わるちがう世代の登壇者の感想や意見をきくことで、重い内容ではあったが絶望せず、平和活動が続けることへの希望を感じることができた。「1人でも多くの人に伝えてほしい」というメッセージが、参加者一人ひとりの心に強く響いたプログラムとなった。

3. 国際的な諸問題についての学習と啓発事業

8月に行われた中高YWCA全国カンファレンスに多文化共生ワークショップグループが出展。渡日の子ども達の立場にたって必要な支援を考える「サンチャゴ君なんで？」のワークショップを実施した。3月には、「公文和子さんを囲む会 グッド・モーニング・トゥー・ユー〜ケニアで障がいのある子どもたちと生きる〜」を行った。ケニアで障がいのある子どもとその家族に専門的な医療や福祉、教育を提供する「シロアムの園」を立ち上げ、活動されている小児科医の公文和子さんを招き、子ども達と共に生きる日々や日本とも共通する課題などを伺った。厳しい状況の中でも輝く子ども達の笑顔と、共に生きる喜びを体現されている公文さんの生き方に、YWCAの活動の原点に立ち帰り、困難に立ち向かうエネルギーをいただいたひと時だった。

4. 東日本大震災被災者支援

コロナ禍により2年間中断していたリフレッシュプログラム「大阪わいわいステイプログラム」の実施に向けて動き出していたが、7月に入り大阪の感染者が急増してきたことを受け、やむなく中止することとした。準備段階で、他団体のコロナ対策についての情報収集や、参加者や引率者に陽性者が出た場合のシミュレーションなどを行ったことは、今後活かしていきたい。わいわいステイプログラムが中止となったことから、コロナ禍の中でもできる支援について協議し、関西に進学してくる被災地出身者への奨学金支給にしぼって、募集要項や広報などについて検討中。2023年度からの支給をめざしている。3月には恒例の街頭募金を実施した。

Ⅲ. 社会的に弱い立場におかれた人への支援事業

1. 知的障がいをもつ女性の社会参加を促進する事業

(1) グループパレット（知的障がいをもつ女性たちのグループ活動）

グループパレットは、知的ハンディキャップのあるメンバーが委員会に参加し、企画にも積極的に関わっている。ボランティアと協働して誰もが自分らしくいられる場づくりを目指し、月1回の例会では、毎回メンバーとボランティアが担当をとって様々なプログラムを主体的に実施している。

今年は“感染症を正しく理解し、活動を継続する”を目標とし、4月からプログラムを行った。野外でお弁当を広げて桜をめめたり、感染症が落ち着いた時期を見計らってボウリングに行き体を適度に動かしたりと、外出プログラムも実施することができた。クリスマスバザーでは古着の詰め放題を担当し、メンバーとボランティアが協力して売り子を務めた。バザーではパレットに関わってくださった方々との嬉しい再会があり、声を上げて喜びあった。今年度もコロナ禍のなかで制限がある活動ではあったが、グループパレットの趣旨を理解し申込をしてくれたメンバーが1名増えたことは大きな実りである。ぜひ同様にボランティアも増やしていきたい。

2. 視覚障がいをもつ人の社会参加を支援する事業

(1) むらさきつゆくさの会（視覚障がい者のための生け花の会とガイドヘルプ）

むらさきつゆくさの会（視覚障がい者のための生け花講座）は、感染症対策を取った上で、今年度は毎月開催することができた。20代から80代までの幅広い年代の受講生11名とボランティア7名が活動している。活発な受講生が多く、毎月お花を生けるのを楽しみしてくれていてボランティアも良い刺激を受けている。

(2) リーディンググループ

リーディンググループは、2グループがそれぞれに定期的に集まり朗読の録音や勉強会を行っている。

(3) 点字子ども図書室

今年度も従来通り月曜日と木曜日に活動をおこなった。しかし、引き続き在宅での点訳活動を続けている者も多い。日本郵便の年賀寄付金配分事業に応募、無事採択された。12月には寄付金の贈呈式が行われ、その寄付金で新しい点字プリンターを購入することができた。

今年度の新規児童書の点訳は、例年の3分の2程度にとどまった。2022年度現在までの蔵書数は3,892タイトル、8,013冊を数える。例年通り、統合教育を行う小中学校の算数・数学の教科書の点訳、金蘭千里中高のボランティア部で点訳講習を行っている。蔵書の保管場所の確保が引き続き懸案事項となっている。

3. 高齢者の社会参加を促進する事業

千里ボランティア委員会では、今年も高齢者のための**配食サービス**を毎週木曜日におこなった。地域の方々からのニーズは高く現在新規の申込みはキャンセル待ち状態であるが、作り手も高齢化してきており配食数を増やしていくことがなかなか難しい状態である。しかし今年は、ママズカフェ参加者の若いメンバーがサポートに入るようになり大変助かっている。

今年度から新しくボランティア委員会で活動することになった**使用済み切手整理**は、JOCsでの使用済み切手の受け入れが再開され月1回のペースで順調に活動をおこなっている。

11月には以前好評であったイベント「**グッバイ認知症 体操編**」を実施した。認知症予防に役立つお話や体操を中心に学び有意義な時間となった。3月に予定していた主催講座は、2023年4月に牧野直子氏を講師に迎え、DVD「アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く」を観ながら、講演会「**中村哲さんに学ぶ**」を開催した。

4. 女性のエンパワメント推進事業

(1) 女性のこころの健康サポート

2022年度、主催講座「私らしく咲く～女性のこころの発達を考える連続講座～」(くれよん月例会)は、計11回実施。年間テーマを「共感とこころの健康5-フェミニズムから見るこころの健康」とし、ジェンダーに関するマイクロアグレッションの解決のヒントを与えてくれる代表的なフェミニズム思想をテーマとして扱った。

女性のこころの健康をサポートする事業としての**カウンセリング**は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、昨年度より、対面とオンラインの両方に対応している。年間6回、延べ6名が利用した。

(2) インターンシッププログラム

昨年度から始まった若い女性のリーダーシップ養成のための**インターンシッププログラム**は、6月から2月まで毎月1回対面とオンラインのハイブリッドでプログラムを実施した。初回の6月はオープンプログラムとして特定非営利活動法人いくの学園スタッフを迎えて公開講演会を実施。2回目以降のウォームアップの時間では、国際条約等を用いて人権に関する知識や思いを深めた。10月の公開講座はロニー・アレキサンダー神戸大学名誉教授を迎えてセクシュアリティの学びを深め、他の回では内外から講師を招き、日本型家父長制、性と生殖の健康と権利、キャリア形成、等多様なテーマで講義を行った。講義を聞いた上でメンバーが議論を行い、テーマに関する理解を深め、問題意識を高めた。同プログラムの一環として、国立女性教育会館主催「男女共同参画推進フォーラム」(通称NWECフォーラム)に出展。12月10日オンラインにて「消費される女性性～メディアを通して考えるアンコンシャスバイアス～」をテーマにしたワークショップを行い、19名が参加した。2023年2月25日の最終回には、福田和子『#なんでないのプロジェクト』代表をメインゲストに、インターンシップ生主導のパネルディスカッションを行う公開プログラムを開催した。

(3) Rise Up! School Visits

中高生のための包括的性教育プログラムを開発・実施する『Rise Up! School Visits』(RUSV) チームに関しては

新たな募集により6名のメンバーが得られた。8月3日に中高YWCA全国カンファレンスにて、ルッキズムをテーマに、『「写真加工」はなぜするの？ ～「見た目」について話してみよう～』というワークショップをオンラインで実施した。参加学生12名。また11月26日、YWCAフェスタ2022に参加。『「見た目」で人を縛る“ルッキズム”』をテーマに分科会に出展、参加者は全国のYWCAより対面とオンライン併せて18名。3月にはプール学院中高YWCA部へ、同じくルッキズムをテーマにワークショップを実施した。

(4) 関西学院大学YWCA

関西学院大学神戸三田キャンパスの学生を中心に発足した**関西学院大学YWCA**は、新メンバーが2名加入、現在三田キャンパス以外を含めメンバー計9名。ジェンダー平等やセクシュアルマイノリティの理解促進、などをめざして活動している。6月はプライド月間に寄せて、SNSで身近なLGBT+の当事者エピソードの投稿をするなど、LGBT+についての理解促進を図った。プライド月間に開催予定だった公開イベントは開催に至らず、メンバーだけでの勉強会を実施した。1月よりミーティングを月2回の固定開催とし、第1・3月曜日夜にオンライン開催している。1月23日には、栗田明日香・前女性エンパワメント部委員長を講師に、セーフスペースについての学びをもった。またSNS投稿について、毎月1回の投稿を目指し、性、ジェンダー、セクシュアリティに関わるコンテンツを投稿している。

(5) 外部団体との交流と連携

外部団体との連携に関しては、2月18日に特定非営利活動法人いくの学園と共催で、シンポジウム『「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」成立～改めて考える“女性支援”とは何か～』を実施した。

その他、6月14日に大阪府立西野田工科高等学校定時制にて、「対人コミュニケーションをジェンダーの観点から」というテーマで出張授業を実施。9月15日には、大阪府立堺東高校のSDGsの特別授業でジェンダーに関する授業を実施し、10月25日に関西学院大学三田キャンパスにて、フェミニズムとジェンダーに関するワークショップを行い、それぞれ委員や職員が講師を務めた。

ステップハウス元入居者支援グループのクリスマス会を12月10日に会員ルームで実施、12名参加。コロナ禍であっても年に1度の近況報告の場となった。

上記の活動のうち、ユース育成に関わる部分は、「日本YWCAユースエンパワメントプログラム補助助成金」を得て実現が可能となった。

昨年度のインターンシップ受講生の1人が委員会メンバーに加わったこと、今年度のインターンシップ受講生が大阪YWCAピースフェスティバルの登壇者になったり、国立女性教育会館のインタビューを受けたりするなど、小さな歩みではあるが、成果の感じられる年となった。

5. 中国残留邦人等への支援事業

(1) 近畿中国帰国者支援・交流センター（厚生労働省委託事業）

日本語学習支援として、春夏期、秋冬期ともに11コース17クラスを開講し、約160名が登録、毎月延べ約300名が参加した。今年度はオンラインではなく対面で全ての授業が実施できた。出席者数も昨年度に比べ増えた。

I世代対象の日本語クラスでは地域で役立つ「コミュニケーション能力」に重点を、またII～III世を中心としたクラスでは、集中的に学べるコースや上級レベルの日本語コースを開講し、「就職活動」「ビジネス場面」で役立つ日本語が学べるようにした。他にもキャリアアップ支援を目的とした「日本語能力試験」「観光・医療通訳技術」の資格取得対策、パソコンコースも引き続き開講した。今年度は、日本語能力試験N2を7名、N1を5名が受験し、N2に5名、N1に2名が合格した。これら通学学習課程に参加できない帰国者のためには、遠隔学習課程

(通信教育)のスクーリングを実施した。また、交流事業としては、引きこもり防止を目的にI世代対象に「朗朗(ランラン)クラブ」を実施した。延べ約110名の登録があり、季節の行事体験、介護予防体操、和洋裁等に毎月延べ約100名が参加した。高齢化が進むI世を対象とする介護支援事業「語りかけボランティア訪問」は、以前として実施が難しい状況が続いている。介護施設、利用者との繋がりを保つため、ボランティアの協力のもとカードや手紙を送った。地域支援事業は各自治体職員対象の「近畿ブロック担当者連絡会議」を6月に実施し、情報交換の機会を設けた。地域での支援を充実させるため地域生活支援推進事業として、地域で支援活動をするボランティア団体、自治体等各関係機関、NPOとの連携に努めた。また、尼崎市の支援団体である「コスモスの会」主催のシンポジウム「中国残留日本人への理解を深める集い」に協賛した。就職援助事業では、週3回日本語を学ぶ集中日本語クラスにて、3月に模擬就労面接とハローワーク見学を行い、就職活動に必要な情報の提供を行った。

(2) 大阪市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

大阪市中国帰国者支援事業では梅田に高齢者対象の日本語ゆっくりコース 3 クラス、朗朗自習パソコンクラス 1 クラス、平野区に日本語コース 2 クラス、東淀川区に朗朗日本語クラブを開講した。合計約 60 名が在籍し、日本語学習や交流活動に参加した。新型コロナウイルス感染状況を表す大阪モデルが赤信号であった 8 月、9 月は休講となった。12 月には再度感染が広がり始めたが、行動制限の実施がなかったため、対面での授業を継続することができた。参加者の高齢化に配慮し、全てのクラスでラジオ体操を実施し、その他にも脳トレや歌も取り入れ、介護予防、認知症予防のため楽しく継続して日本語が学べるよう実施した。

(3) 門真市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

門真市中国帰国者支援事業では毎週日曜日、日本語コース 3 クラスを開講、約 10 名が在籍した。学習歴のない人や高齢者の参加を促進するため、“楽しく学ぶ”ことに重点をおいた。地域交流を目的に実施している「朗朗門真」には約 15 名が在籍し、手芸、介護予防体操、脳トレ、盆踊り等、引きこもり防止を目的に楽しみながら日本語に触れられるプログラムを実施した。

(4) 京都市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

京都市中国帰国者支援事業では、今年度前期(4~9月)、毎週日曜日日本語コース 2 クラスを開講し約 10 名が在籍した。月に 1 回は地域に住むボランティアの協力により会話練習を実施した。高齢者対象の「朗朗京都」は、向島地域と醍醐地域でそれぞれ月 1 回実施をした。合計約 30 名の登録があり、健康体操、手芸等をしている。参加者の居住地に近い会場のため、積極的に参加する人が多かった。

(5) 宇治市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

宇治市中国帰国者支援事業では、今年度後期(10~3月)、毎週日曜日日本語コース 2 クラスを開講し約 10 名が在籍した。月に 1 回は地域に住むボランティアの協力により会話練習を実施した。高齢者対象の「朗朗京都」は、向島地域と醍醐地域でそれぞれ月 1 回実施をした。合計約 30 名の登録があり、健康体操、手芸等をしている。参加者の居住地に近い会場のため、積極的に参加する人が多かった。

(6) 堺市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業（堺健老クラブ）

堺市中国帰国者支援事業である堺健老クラブは、毎週木曜日 3 クラスを開講、約 30 名が在籍。引き続き感染拡大防止のため、ボランティアとの会話練習を行う合同クラスは行わず、通常授業のみ実施した。コロナ禍が続く中、持病のため欠席が続いている I 世代がいる一方で、II 世代が定年退職の年代になり、そうした II 世の新たな受講申込が増えた。

(7) 大阪府医療通訳研修会実施業務

大阪府による医療通訳研修会の実施が決定し、1~2 月、計 10 講座を開講し、延べ 279 名の出席があった。

IV. 青少年育成事業

1. 青少年活動

(1) こどもミニスクール

外部講師や会員の協力を得て様々なプログラムを提供している「こどもミニスクール」は、子どもゆめ基金の助成を受け、夏休みと冬休みに千里で開催した。SDGs について学び、大阪YWCA専門学校日本語学科の留学生やこども部のリーダー達と一緒に外国の遊びをしたり、正月飾りや凧を作ったり、絵本の読み聞かせ等を実施。普段の生活では関わる機会が少ない外国籍の人たちや様々な世代の人たちとともに、体験する力を育んだ。新型コロナウイルス感染症の影響で参加者数が激減したこともあるが、子どもたちの学びの環境もこの 2 年間で大きく変化したこともあり、子どもたちのためのプログラムを検討する時期にきたということで、今年度をもって終了することとした。

2. 子ども図書室事業

去年 10 月から再開したちゅうりっぷくらぶは、親子が楽しく参加している。徐々に全体のミーティングや勉強会も再開し、9 月には子ども図書室を毎週水・金曜日に開館することができた。

シャロン千里は高齢者福祉施設であるため入場制限が続いており、**大人のためのお話し会**は梅田の会館で実施した。50周年記念誌の編集作業は今年も続いており、完成に向けて大詰めを迎えている。

3. 子育て支援事業

千里子育て支援委員会は、今年度順調に**おやこひろば**を実施した。新しい参加者も増え、子どもたちの健やかな成長を見守るだけでなく、母親にとっての憩いの場になるような場づくりを心掛けた。夏休みに開いたオープナーでは参加者 OB も含めたくさんのメンバーが参加し、こども達が暑い夏でも涼しい室内でおもいきり遊ぶことができた。

ママズカフェは今年から自主運営の形式で参加メンバーが中心となり活動を続けている。また今年、ママズカフェメンバーの有志が新しく**グレートママ**というグループを作り定期的にお菓子作りを行った。グレートママには千里ボランティア委員会のメンバーがサポートし、千里ガレージセールやクリスマスバザー等でも作ったお菓子を販売し活動に協力した。

V. ボランティア養成事業

1. 梅田

様々な世代の交流、会員親睦などの機会をつくっている。

傾聴関連活動の**傾聴カフェ・ラベンダー**は、今年度はコロナの感染症対策を取りながら月に2回、開店している。研修会は例年通り、臨床心理士の井ノ崎敦子氏を招き行った。**訪問傾聴・コスモス**は月に1回、個人宅に訪問し傾聴をしていたが、夏から体調を崩されてその後は休止している。

会員クリスマス会は、3年ぶりに開催することができた。第一部礼拝では井上隆晶牧師（都島教会）からのメッセージをいただき、第二部では大阪女学院保護者 OG のハンドベルチーム Dancing Bells によるハンドベルコンサートを楽しみ、その後はティーパーティを行った。

梅田会員部所属グループは現在 17 あり、約 100 名のメンバーが自主活動を展開している。リーディンググループ、むらさきつゆくさの会、みのり会、英会話サロン、聖書を学ぶ会、スウスの会、いのちを語る会、絵手紙の会、手話サークル、ソーパークーピングの会、ねこの会、ルルブ、多文化共生ワークショップなどのグループが活動を行っている。また、今年度から平和・環境部、こども部、奨学金委員会で作っていた留学生への手作りスープの提供を**ベジスープの会**としてグループ活動でおこなうこととなった。各グループとも、十分な感染予防対策をした上で再開している。

この他、ご寄贈頂いた無農薬の紫蘇で 7 月に紫蘇ジュースを作った。またパラダイス&ランチのパンもベジスープのスープの日に合わせて販売している。ここ数年はコロナの影響でできなかった水餃子作りも中国帰国者の下岡純子さんのご協力を得て、久しぶりに実施することができた。

会員ルームでの「きまぐれバザー」の常設は終了したが、4 月にはリサイクル衣料特別セールを行い、7 月にはミニバザーを行った。12月の全体のクリスマスバザーの際にも開店した。

講座としては、昨年に引き続き鶴橋で昆布屋を営んでいる昆布司「吾妻屋」取締役の向久保裕介氏を講師に迎え「日本の食文化をみつめなおす Part II」～伝統的なお出汁とは～としてお話いただき、実際に出汁を取って試飲もした。秋の正倉院展に合わせ、今年も帝塚山大学客員教授の牟田口章人氏を講師に迎え「正倉院入門」の講座を行った。正倉院の成り立ちから、今年展示の逸品の紹介などをしていただいた。

2. 千里

今年度は千里での活動場所を変更することになり、設立当初から愛着をもって活動してきたボランティア室からこども館への引っ越しを行った。6 月には**千里会員集会**を行い活動場所が変更となった経緯を説明、寂しさや不安を感じる会員に寄り添いながら、皆で気持ちを新たにしました。約半年かけて片付け等を行い、10 月からは新しい場所で活動を再開、名称をボランティアルームとシスタートした。また 10 月には昨年同様、関係者のみに限定して**ガレージセール**を開催。徐々に新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきていたため、外でも販売コーナーを設け一般の方にも宣伝した。午前中のみであったが徐々に会員や関係者が集い、楽しくにぎやかに交流ができるひと時となった。

クリスマス会も昨年同様会食のない形ではあったが以前のように 2 階ホールにて実施し、皆と共にクリスマスを祝うことができた。**クリスマスミニセール**も予定通り行った。毎年恒例の**毛糸の帽子を編んでみよう会**は今年も多くの方のご協力により全国から 319 個の帽子が集まり、歯ブラシ、固形せっけんなどと共に釜ヶ崎に贈ることができた。

千里合唱団は、毎週木曜日に活動を行い、12月には3年ぶりにクリスマスチャペルコンサートを千里阪急ホテルにて実施した。コンサートでは千里ハンドベルクワイアも参加し、美しい音色が響くうっとりとした心温まる時間となった。

聖書を読む会は、城北教会の東島美穂牧師を講師に迎え順調に月1回の例会を開いた。サロン四季のグループも充実した活動を展開。文月会は順調に月1回で活動し、10月にはやまぼうし18号を発刊した。Bridgesはzoomを使ったオンラインでの会議を取り入れ、世界中にいるメンバーとつながる機会をもった。アトリエ創も定例の月2回の活動を順調に開催し、ガレージセールにも出店した。会館清掃はボランティア室からボランティアルーム(旧こども館)への引っ越しに伴い、今年度をもって活動を締めくくることがとなった。今後清掃活動は全体で引き継ぐ予定である。趣味のグループ生け花、水彩画はおおむね予定通り開催している。月に一度の貴重な憩いのひと時となっている。

恒例のバザーや歌声サロン、催し物は今年度実施できなかったが、今後は様子を見ながら再開できることを期待したい。

3. こども部

こども部は、今年度梅田会員部委員会に属するグループとして、リーダートレーニングを中心に活動を行なった。運営はリーダー会が担い、会合をオンラインにて定期的で開催した。リーダートレーニングは野外炊事の技術習得を目的に年2回の実施した。7月には、吹田市自然体験交流センターわくわくの郷(大阪府吹田市)において、現役リーダーおよびリーダーOBにより野外炊事を行い、ダンボール窯でのピザ焼き、ダッチオーブンを使ったパエリア作りに取り組んだ。また、リーダーOBの子どもの参加も可能とし、若いリーダーが子どもと一緒に遊ぶことを体験できる機会を作った。1月には、わくわくの郷において竹筒で炊くご飯、ダッチオーブンを使った鳥の丸焼きに取り組んだ。施設内に生えている竹を切り出すところから始まり、参加したリーダーはノコギリの使い方がずいぶん上達した。3月には、万博記念公園で行われたアウトドアフェスティバルの「チャレンジ広場」にボーイスカウト、ガールスカウトほか大阪の青少年団体と共に参加。ロープワークのコーナーを担当し、子どもたちと一緒にこいのぼりに挑戦した。

講座部主催の「こどもミニスクール」に協力し、7月のプログラムの「留学生と遊ぼう」の部分を担当。企画から当日の実践まで行った。参加者は少なかつたものの、外国の遊びを留学生と一緒に楽しむことを通して、子どもたちに外国の文化に触れる機会を提供することができた。

4. ボランティアの受け入れ

電話やホームページからボランティアの問い合わせがあり、問い合わせがあればその都度、個別での対応を行っている。1年間のボランティア登録者数は4名。傾聴カフェラベンダー、点字こども図書室、こども部、バザーの活動につながった。

5. ファンドレイジング

(1) クリスマスバザー実行委員会

昨年度から引き続き、運営委員会が実行委員会を構成し、普段活動している委員会やグループ単位で売り場を担当する形で午後だけの短時間の開催とした。加えて、今年度は外部からの来店客受け入れと外商出店の募集を再開した。会館外壁面のポスター掲示と会員や来館者へのチラシ配布、facebookやInstagramなどSNSでの発信のみの広報ではあったが、当日は午前中から行列ができる盛況ぶりだった。外商出店は、おなじみのお店からご新規まで9の個人と団体からお申込みをいただき、個性的な品々が売場を彩った。廊下に店開きをしていた10円均一のコーナー人気で人だかりができてしまうなど、売り場の配置には工夫が必要ではあるが、今後も試行錯誤をしながら、新しい形のバザーを創っていきたい。ご寄贈品をお送りいただいた企業や個人の皆様、ご来場くださった皆様、働き人の皆様に深く感謝をしたい。

日程：2022年12月2日(土) 来場者：約350名(働き人、職員含む)

6. 運営委員会

運営委員会では、世界YWCA日集会、ピースフェスティバル、クリスマスバザー、定期会員集会、公文和子さんを囲む会の企画・運営を行った。ここ数年、運営委員の担い手不足が続いていることから、運営委員会や運営委員の役割とあり方についての議論をはじめた。運営委員の中に「運営委員会改革ワーキングチーム」を立ち上げ、2023年度、本格的に組織の見直しに取り組むこととなった。

7. YWCA親睦会

大阪YWCA千里合唱団ハンドベルクワイアをスペシャルゲストに迎え親睦会を開催した。ハンドベルの澄んだ美しい音色と春の訪れを感じさせる柔らかな合唱曲に、久しぶりに集うことが叶ったなつかしい会員、賛助員が酔いしれた。後半は若手の職員が企画したゲームに参加者が全力で挑戦。笑顔のあふれる正に大阪YWCAらしい活気あふれる楽しいひとときであった。 日程：2023年3月4日（土） 参加者：46名

VI. 広報

1. 機関紙

発行回数は、定例機関紙 [A4版4頁] 年6回。今年度も2月の特別号 [A3版両面] の発行はなかった。

定例版の1面は主に外部執筆者にその時々課題を明確にする寄稿を依頼、2～3面は、YWCAの関心事や活動テーマを掘り下げる内容となっている。1～3面で取り上げたテーマは、DV被害者支援、沖縄基地問題、ジェンダー、外国人の人権問題、生きづらさを抱える女性への支援、アフガニスタン問題、環境問題等。4面には、専門学校を始め大阪YWCAに関わる報告やイベントの広報を主に掲載した。連載では、『ぶどうの木』、『YWの窓』、『わたしのイチオシ』を継続した。

2. ホームページ・WEB関連

今年度のホームページからの問い合わせ（専門学校を除く）は、年間91件。問い合わせ対象で主だったのはカフェラベンダーや毛糸の帽子を編んでみる会等のボランティア活動、バザーピースフェスティバル等のイベント、教師会関連、女性エンパワメント部関連だった。ホームページでは、手話サークルknotの閲覧数が1番多く、特に10月以降「手話講座 大阪」や「手話サークル 大阪」で数多く検索された。続いて、ボランティア活動一覧やイベント情報のページが閲覧された。講座やイベント等では、Facebook、twitter、Instagramでの情報発信にも力を入れた他、Peatixによる申込を導入することでの広報効果も取り入れた。

VII. 日本Y・他市Y・他団体関係

世界YWCA日集会は、新入会員歓迎会を兼ねて「YWCAははじめの一步」をテーマに開催した。世界YWCAとのつながりや、YWCAが行うウクライナやパレスチナへの支援活動について、大阪Yで行われている様々な活動の紹介などを行い、参加者がそれぞれ関わる活動やYWCAへの思いなどを語りあった。YM/YW合同祈禱週集会は「Ignite 暗闇に火を灯す：インパクトのための祈りを捧げる」をテーマに、大阪YWCAでの対面参加とオンライン参加の併用で実施した。日本バプテスト同盟高槻バプテスト教会のマキン サンサン アウン牧師による礼拝と手作りのケーキとお茶を楽しみながら大阪YMCA、関西韓国YMCA、大阪YWCAそれぞれの活動報告を行った。大阪YWCAからは、女性エンパワメント部が取り組む若い女性のリーダーシップ養成について報告した。

日本YWCAの地域YWCAを主体とした活動助成 (LA:Local Action) 第3期の募集が行われ、大阪Yは沖縄YWCAと共に「沖縄と大阪を結んで女性の人権とジェンダーの課題を考える」をテーマに応募、採択が決定した。2023年度には学習会、2024年度には沖縄、大阪それぞれの地でフィールドワークを予定している。

6月に韓国YWCAが主催し、オンラインで行われたアジア地域会議や9月の国際平和デー・オンラインイベントにユース会員が参加し、大きな役割を果たした。

11月には東京YWCAを会場にYWCAフェスタ2022が開催され、ワークショップを出展する女性エンパワメント部のメンバーを中心に10名が参加した。

日本YWCAが主催する「オンライン会員研修」には、運営委員会と理事会より4名が参加。よりよい組織運営に向けた学びが展開している。

他団体関係では、国際女性年大阪連絡会に事務局団体として参画し、8月と3月に行われた集会の企画、運営を担った。また、3年ぶりに対面で開催されたワンワールド・フェスティバルに出展した。

VII. 収益事業

社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会の経営する大宮保育園に対して、本財団の大宮町の土地・建物を貸与。また、同じく同福祉会の事務業務の一部を受託した。

I. 教育事業

1. 専門学校事業

(1) 全体概要

◇会議

- *日本語本科別科ミーティング 1回実施 出席数6名
- *学校広報ミーティング 2回実施 延出席数5名
- *日本語本科 受入れミーティング 5回実施 延出席数18名

◇外部団体会場への参加・出席

- *大阪府専門学校各種学校連合会
 - ・専修学校グローバル化対応推進支援事業留学生委員会ワーキング会議(9回) 中山羊奈
 - ・専門学校教職員向けオンラインセミナー 6/30、8/25 川崎仁子、中山羊奈
 - ・教職員向けオンラインセミナー打合せ 10/3、19、1/26 氏原庸子、川崎仁子、中山羊奈
 - ・教職員向けオンラインセミナー 10/27 氏原庸子、川崎仁子、中山羊奈
 - ・海外教育機関向けのオンライン出前授業 12/6、8、13 氏原庸子、川崎仁子、中山羊奈、PHAM QUYNH MY、NGUYEN THI YEN NHI、NGUYEN THI THU HA、LE DHIN VIN KHANG、NGUYEN THI QUE DUYEN
 - ・人権教育研修会 12/13 永嶋里香
- *全国専門学校日本語教育協会
 - ・ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業の協会取組の進捗報告(オンライン) 4/13 川崎仁子
 - ・ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業オンライン説明会 5/26 氏原庸子、川崎仁子
 - ・ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業事務担当者向け説明会(オンライン) 6/6、8/3 川崎仁子、中山羊奈、藤田実余子
 - ・ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業中間報告会(オンライン) 10/27 川崎仁子
 - ・ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業実践報告会(オンライン) 1/20 井関幸、氏原庸子、奥美和子、影島充紀、川崎仁子、小出芳生、永嶋里香、中山羊奈
 - ・ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業最終報告会事前打合せ(オンライン) 1/30 井関幸、氏原庸子、川崎仁子
 - ・ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業最終報告会(オンライン) 2/10 井関幸、氏原庸子、奥美和子、佐伯玲子、永嶋里香、中山羊奈、藤田実余子
 - ・全国専門学校日本語学習外国人留学生日本語弁論大会 2/10 川崎仁子、THIN THIN AYE
- *全国日本語ネットワーク
 - ・ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業についてのオンライン説明会 4/8 川崎仁子、藤田実余子
- *日本語教育振興協会
 - ・生活指導者研修(オンライン) 1/19 永嶋里香
- *文化庁
 - ・日本語教育大会(オンライン) 12/17 川崎仁子
 - ・「日本語教育の質の向上の仕組みについて報告案」説明会(オンライン) 12/27 川崎仁子、藤原裕美子
- *その他
 - ・株式会社アクセスネクステージ主催 オンライン進学説明会 5/24 佐伯玲子
 - ・JaLSA(全国日本語学校連合会)主催 関西教育・文化懇話会 7/21 川崎仁子、藤田実余子
 - ・ECC 国際外語専門学校主催 日本語学校教職員対象学校説明会 8/6 井関幸
 - ・大阪YMCA 主催 Ylab セミナー「今、なぜ日本語!?—日本語教育の現在・過去・未来—」(オンライン) 10/1 川崎仁子、中山羊奈
 - ・大阪地域留学生等交流推進協議会主催 外国人留学生在留審査手続の申請取次等に係る研修会(オンライン) 10/18 永嶋里香
 - ・株式会社アクセスネクステージ主催 「課題解決・事例紹介1Day 無料ウェビナー」(オンライン) 10/26 奥美和子
 - ・株式会社Doorkel 主催 募集広報オンラインセミナー 11/18 川崎仁子
 - ・ECC 国際外語専門学校主催 日本語教員向けセミナー 11/19 川崎仁子
 - ・日本財団主催 「ウクライナ避難民向け日本語学校奨学金」説明会(オンライン) 2/3 川崎仁子
 - ・日本国際交流センター主催 「外国ルーツ青少年の教育スタート支援」公募説明会(オンライン) 2/14 川崎仁子、中山羊奈

・名古屋YWCA 夏期集中コース打合せ（オンライン） 3/7 川崎仁子、中山羊奈

◇外部来訪・訪問

- ・大阪女学院来訪 5/31 5名 川崎仁子、中山羊奈
- ・神戸YWCA 来訪 6/23 5名 川崎仁子、中山羊奈

(2) 日本語学科/本科・日本語第二学科

◇クラス数/学生数

※モーニング会話クラスを含む。

クラス数		学生数				
		1年	1.5年	第二学科	一般	合計
春期	4	20	6	1	5	32
秋期	5	20	28	1	13	62

◇出身国と地域

中国、台湾、韓国、インド、インドネシア、タイ、ネパール、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、アメリカ、ニュージーランド、スペイン、トルコ

◇学生受け入れ

- ZOOM 面接 2022年度10月生 6回 43名
- 2023年度4月生 13回 42名
- 2023年度10月生 3回 15名

◇進学指導・生活指導関係

内 容	回数もしくは日程	出席者数
実力テスト	6回	170 (受験者のみ)
文法テスト	6回	242 (受験者のみ)
定期テスト (5科目)	4回	762 (受験者のみ)
生活・進路相談	10/26、27、12/2、6、7、 9、16、20、21	45
日本留学試験	6/19、11/13	4 (受験者のみ)
日本語能力試験	7/3、12/4	42 (受験者のみ)
進学説明会	7/4	34
継続生クラス分けテスト	9/12、3/6	60 (受験者のみ)
新入生クラス分けテスト	10/3、4、5、7、3/27	41 (受験者のみ)
第二学科面接	2/8	12 (学生のみ)
予備教育：総合科目 4月～11月 26回 英語 4月～11月 22回 数学 4月～11月 26回		
午後2 漢字クラス：4月～9月 (2クラス) 週3回、(1クラス) 週2回 10月～2月 (3クラス) 週3回、(1クラス) 週2回		

◇年中行事・校外学習・課外活動プログラム・特別授業

内 容	回数もしくは日程	出席者数
入学式・クラスオリエンテーション (オンライン含む)	4/5、10/11	107
新入生オリエンテーション (オンライン含む)	4/5、19、10/12	56
お出かけランチ	5/26、31、6/10	32
日本文化体験 (浴衣の着付け)	6/21	29
日本文化体験 (七夕飾り)	7/5、6	60
健康診断	8/19、25、12/7、12、15	148
校内スピーチコンテスト	9/22	52
校外学習	11/4	62
クリスマスパーティー (ゲスト：大宮保育園園児)	12/22	86
上級クラス会話交流会 (大宮保育園訪問)	3/2	100
学習発表会	3/10	78
卒業式	3/15	72
オンラインホームカミングデー	4/5、7/16、30	59

◇文化庁ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業（計2期実施）

内 容	回数もしくは日程	出席者数
事前面談	7回	52
中間面談	4回	56
事後面談	4回	34
オンライン授業	18回	235
実証事業打合せ	7/25、8/1、12/9、12	21
実証事業講師会	7/28	9
実証事業評価検討会	9/15	5

◇会議・研修会

日本語本科ミーティング 5回実施 出席延数 28名
 担任会 9/28、3/23 出席延数 19名
 全体講師会 10/6、3/31 出席延数 65名
 モーニングコース会議 3/25 出席 2名
 中間講師会 6/24、12/9 出席延数 54名
 春期報告会 9/21 出席 7名
 卒業判定会議 3/8 出席 8名
 予備教育講師会 3/13 出席 8名

(3) 日本語学科/別科

◇イブニングコース

春期：4クラス 35名 秋期：3クラス 24名
 出身国/地域：中国、台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、タイ、ミャンマー、ネパール、フィリピン、モンゴル、
 トリニダード・トバゴ、オーストラリア、アメリカ、フランス

◇日本語能力試験準備コース

春期：2クラス 4名 秋期：2クラス 10名
 出身国/地域：中国、韓国、ベトナム、シンガポール、モンゴル、アメリカ、フランス、イギリス

◇夏期集中コース

2クラス 7名
 出身国/地域：中国、台湾、香港、ニュージーランド、フランス
 オプションプログラム 書道体験 7/22 5名
 修了式 8/5 11名

◇プライベート・出張授業 13件

◇プレイズメントテスト

イブニングコース 春期プレイズメントテスト 4/8、12、15、21、6/28 12名
 イブニングコース 秋期プレイズメントテスト 10/7、18、21、11/11、1/10 12名
 日本語能力試験準備コース 秋期レベルチェックテスト 9/2、5 7名
 夏期集中コース ZOOM面接 6/24 3名
 夏期集中コース プレイズメントテスト 6/28、7/1、6、11、12、13 14名

◇会議

イブニングコース 春期講師会 4/15、7/14 15名
 イブニングコース 秋期講師会 10/14 9名
 イブニングコース 春期中間講師会 5/31、6/14、8/18 9名
 イブニングコース 秋期中間講師会 12/6、23 4名
 日本語能力試験準備コース 春期講師会 4/1 7名
 日本語能力試験準備コース 秋期講師会 9/6 7名
 夏期集中コース 担任会 7/8 5名
 夏期集中コース 講師会 7/16 13名
 夏期集中コース 反省会 8/5 4名
 別科ミーティング 4/11、12/22 11名

(4) 奨学金

奨学金名称	受給者名	受給額
JASSO 物価高に対する経済対策支援金	47名	一律1人10,000円
大阪YWCA留学生里親の会奨学金	マ ローリン (マレーシア)	月額30,000円 (3ヶ月)
鈴木保奨学金	グエン ティ イエン ニー (ベトナム)	月額30,000円 (6ヶ月)
大阪YWCA奨学金	ルビオ ガンディア イヴァン (スペイン) ティン ティン エー (ミャンマー) グエン ティ トウ ハー (ベトナム)	月額30,000円 (6ヶ月)

2. 日本語教師を育成する事業

(1) 日本語教師養成講座

◇新規入学者 春期 3名 秋期 募集停止

◇在籍数 15名

◇講義回数 (年間総時間数 420時間)

		月・金	火	水	木	土	計
春期	応用	40	—	—	—	—	40
	基礎	—	20	—	21	10	51
秋期	応用	40	—	23	—	—	63
	基礎	—	20	21	18	—	59

◇修了生数 10名

◇プログラム

*講座「生活者としての外国人に『ことば』で寄り添う日本語支援者講座」 全10回 延49名

*FFP (Foreign Friendship Program) 全16回 延46名

*日本語本科会話授業 コロナウィルス感染症の影響により中止

◇会議

日教養ミーティング 12/20 4名

日教養・教師会ミーティング 2/17、3/6 8名

(2) 日本語教師会事業

◇会勢 新規入会者6名 総会員数212名 (内休会60名)

◇月報 「マンスリー日本語教師会」の発行 (12回)

◇図書・テープの貸し出し状況 図書 75冊、視聴覚教材 26本

◇入会オリエンテーション (日本語授業プレゼンテーション含む) 1/28 16名

◇日本語教育状況

学校・コース名	教師数			
	春期	夏期	秋期	冬期
専門学校日本語学科全日制	17	—	28	—
〃 モーニング会話	5	—	4	—
〃 イブニング	5	7	5	5
〃 能力試験準備	4		4	
〃 夏期集中		11		
〃 ビジネス日本語上級クラス	2	2	3	2
〃 〃 特別クラス			2	2
近畿中国帰国者支援・交流センター	20	—	19	—
中国帰国者支援事業日本語コース梅田教室(大阪市)	3	—	3	—
〃 平野教室	2	—	2	—
〃 東淀川朗朗クラブ	1	—	1	—
〃 門真教室	3	—	3	—
〃 京都教室	2	—	2	—
〃 堺 健老クラブ	3	—	3	—
プライベート及び出張授業	13件/教師14名			

◇講座・研修会・研究会・プロジェクト

- ①新人講師研修会 全6回 対象者4名
- ②日本語教師ビギナーのための日本語初級文型の教え方講座 講師：氏原庸子 全12回 7名
- ③初級文型との違いがわかる！日本語中級文型の教え方講座 講師：氏原庸子 全12回 5名
- ④日本語教育能力検定試験対策講座（ハイブリッド・オンデマンド） 講師：島千尋
第一期：全6回 16名 第二期：全6回 14名 第三期：全8回 15名 第四期：全9回 14名
- ⑤夏の日本語教育セミナー（ハイブリッド）
第1回「日本語教師のためのイラストセミナー 表情でわかりやすく伝えよう！」 講師：児島弥生 全1回 23名
第2回「外国にルーツを持つ子どもへの日本語学習支援 体験報告と座談会」
講師：伊東和子・影島充紀・辻村文子・日山弘子・藪野弘美 全1回 33名
- ⑥文法・構文研究会 全11回 メンバー9名

◇外部出張（講師として）

- ①和泉市「日本語ボランティアのためのイラスト講座」 全1回 児島弥生
- ②大阪市立総合生涯学習センター「にほんごこんにちは(基礎レベルの日本語教室)」全60回
伊東和子、大町暁美、川村清美、田村亜津子、林昌子、日山弘子
- ③同上「識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座」 全3回 伊東和子、辻村文子
- ④かみづか国際交流協会「日本語ボランティア対象講座」 全2回 大西雅子
- ⑤橿原市立畷中学校夜間学級日本語指導研修 全6回 里井有里
- ⑥クレオ大阪西「日本語ボランティアスキルアップセミナー」 全2回 伊東和子、林昌子
- ⑦ダイキン工業日本語グループ研修（ZOOMオンライン） 2クラス 野村麻里
- ⑧天理市立北中学校夜間学級日本語指導職員研修 全4回 里井有里
- ⑨トラベルジャーナル学園日本語授業 14クラス
池田敬子、大西雅子、大町暁美、影島充紀、小出芳生、林昌子
- ⑩奈良市立春日中学校夜間学級職員研修 全1回 里井有里
- ⑪枚方市「日本語ボランティア養成講座」全8回 大西雅子、小出芳生
受付業務担当：川崎仁子、藤原裕美子
- ⑫同上「日本語ボランティア ステップアップ講座」全3回 伊東和子、大西雅子、辻村文子
受付業務担当：川崎仁子、藤原裕美子
- ⑬松原市「日本語学習支援パートナー入門講座」全2回 辻村文子
- ⑭守口市「日本語学習支援ボランティア養成講座」 全5回 大西雅子、小出芳生
- ⑮八尾市立八尾中学校夜間学級職員研修 全1回 伊東和子
- ⑯大和郡山市「はじめてのにほんご(入門)講座」 1クラス 坂本由美子、松井治子
- ⑰同上「日本語教室スタッフ スキルアップ講座」 全2回 伊東和子、里井有里

◇外部集会・研修参加

- ①大和郡山市「はじめてのにほんご(入門)講座」打合せ 4/10 氏原庸子、坂本由美子、松井治子
- ②クレオ大阪西「日本語ボランティア スキルアップセミナー」打合せ(オンライン) 5/11 氏原庸子、川崎仁子、藤原裕美子
- ③大阪観光局「留学生支援コンソーシアム大阪」定例会(オンライン) 5/12、7/29、10/13、12/14、2/9 氏原庸子、川崎仁子
- ④日本語教育振興協会「主任教員研修」打合せ(オンライン) 7/12、7/19 岡本牧子、川崎仁子
- ⑤ひょうご日本語教師連絡会議（JLTN）「アカデミック・ライティング初心者のためのライティング教育」 7/23
井関幸、氏原庸子、佐伯玲子
- ⑥日本語教育振興協会「主任教員研修会」(オンライン) 8/26 岡本牧子、川崎仁子
- ⑦ビジネス日本語特別クラス 打合せ(オンライン) 9/27 氏原庸子、川崎仁子
- ⑧大阪市立総合生涯学習センター「識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座」打合せ(オンライン)
10/26 氏原庸子、川崎仁子、藤原裕美子
- ⑨枚方市「日本語ボランティア養成講座・ステップアップ講座」打合せ(訪問) 11/11 藤原裕美子
- ⑩大阪市教育委員会「令和4年度 新たな識字・日本語学習体制検討会議」(オンライン) 12/5、3/9 伊東和子
- ⑪大阪市立総合生涯学習センター 訪問 12/13、3/7、3/15 川崎仁子、藤原裕美子

3. 生涯学習の各種クラス・講座

(1) ランゲージ

◇クラス状況

科目	春期		秋期	
	クラス数	在籍数	クラス数	在籍数
韓国語	1	5	1	6
ベトナム語	2	9	1	4

◇プライベートレッスン

内容	回数	参加者数
韓国語プライベートレッスン	20	1
ベトナム語プライベートレッスン	4	1

◇単発講座

内容	回数	延人数
韓国語特別講座「いきいき会話表現」	1	6

(2) 子どもと子どもの本の講座

◇クラス状況

内 容	回数	延人数
子どもと本をむすぶコース ユニット1「子どもにことばを」	2	12
ユニット2「赤ちゃんに絵本を」	6	53
ユニット3「子どもに絵本を」	4	39
ユニット4「子どもにお話を」	7	54
ユニット5「子どもとわらべ唄」	6	129
ユニット6「子どもに本を手渡すために」	3	19
児童文学を楽しむ特別講座	8	103

◇単発講座

内容	回数	延人数
大人のための春のおはなし会	1	65

(3) 生涯学習・教養講座

講座名	講師	回数	受講者(延人数)
俳句講座(紙上)	松田美子(俳人高浜虚子の孫・俳誌「春潮」主宰)	11	133
日本の食文化をみつめなおすII	向久保裕介(昆布司「吾妻屋」取締役)	1	14
正倉院入門	牟田口章人(帝塚山大学客員教授)	1	20
SDG'sって知ってる?	大畑知子(会員)	1	10

II. 平和・人権・環境等国内外の社会問題についての学習及び普及啓発と人材養成事業

1. 人材育成・研修事業

◇連続講座

講座名	開講日	延人数
生きづらさ支援のためのソーシャルワークセミナー	9/17、24、11/19、2/4、3/17	51

◇外部講座

依頼先	内容	日程	延人数
㈱クボタ及び 関連グループ 企業	クボタケミックス	4/27	7
	新任役職課長マネジメント研修	7/5、7、12	89
	協働の職場づくり研修	9/8、9/20、10/31	78
	コーチング実践研修	9/15~16	21
	新任役職課長マネジメント研修	11/7、11/9、11/14	82
	コーチング・コミュニケーション研修	11/8	33
	コーチング・レベルアップ研修	11/15	12

	コーチング実践研修	11/16～17	16
	2年目研修	1/26～27	10
	新任課長研修	2/7	20
	新任課長補佐研修	2/14～15	18
	5年目研修	2/21～22	8

2. 平和・環境についての学習と啓発事業

◇主催事業

プログラム名	講師等	集会日	参加者
ピースアクション2022映画「ワタシたちハニンゲンダ！」上映とトークセッション	高賛侑（ジャーナリスト、映画監督）、大畑知子、草薙柚季、堀河昌子	9/10	39

3. 国際的な諸問題についての学習と啓発事業

◇主催事業

プログラム名	講師等	集会日	参加者
公文和子さんを囲む会「グッド・モーニング・トゥ・ユー〜ケアで障がいのある子どもたちと生きる〜」	公文和子（医師）	3/2	28

4. 東日本大震災被災者支援

集会名	日程	参加者数（内職員）
街頭募金	3/12	5（1）

Ⅲ. 社会的に弱い立場におかれた人への支援事業

1. 知的障がいをもつ女性の社会参加を促進する事業

（1）グループパレット（知的障がいをもつ女性たちのグループ活動）

◇2022年度登録者数 11名

集会名	集会日	参加人数
例会	年間 11回	延べ 119
家族の集い	—	—

2. 視覚障がいをもつ人の社会参加を支援する事業

◇点字子ども図書室

	回数／年	延人数	貸出対象人数	貸出タイトル数	貸出冊数
点字図書製作	46回	840	31	96	185
点字図書貸し出し	48回	114			

◇視覚障がい者支援

グループ名	回数	延人数
リーディング	エコー	7
	ぼれぼれ	0
むらさきつゆくさの会	11	受講生
		ボランティア

3. 高齢者の社会参加を促進する事業

◇配食サービス

回数／年	配食数／年	総数／年	調理働き人／年	運転働き人／年
46	2,852	4,075	514	184

◇主催事業

行事名	集会日	延人数
脳活体操グッバイ認知症	11/7	24

4. 女性のエンパワメント推進事業

◇プログラム

プログラム名	回数・集会日	人数
くれよん月例会	11	40
カウンセリング	6	6
インターンシッププログラム2022	9	80
インターンシッププログラム2022 オープニング公開講座「支援から協働へ サバイバーと共に社会を変える ～生活の中で「交差」する差別と向き合う～」	6/25	13
インターンシッププログラム2022 公開講座「セクシュアリティ、ジェンダーってほんとに大事ななの？～日本の社会を考えよう～」	10/15	17
インターンシッププログラム2022 NVEC フォーラム出展「消費される女性性～メディアを通して考えるアンコンシャスバイアス～」	12/10	19
インターンシッププログラム2022 公開講座「『なんで？』が世界を変える ～タブーを超えて動いてみたら～」	2/25	29
日本YWCA 中高YWCA全国カンファレンス「写真加工」はなぜするの？～「見た目」について話してみよう～」	8/3	144
YWCAフェスタ2022 分科会出展 見た目で人を縛る「ルッキズム」	11/26	18
Rise Up! School Visits! (中学生向け包括的性教育プログラム) プール学院中学校・高等学校 出張ワークショップ	3/9	26

◇外部集会・研修・会議等

プログラム名	集会日	参加数 (内大阪Y)
西野田工科高校校定時制へ出前授業 健康教育講習会「ジェンダーの視点から考える対人コミュニケーション」	6/14	30(2)
堺東高校へ出前授業 2年次前期探求プログラム「SDGsをじぶんごととして考える」	9/15	28(2)
関西学院大学 チャペルトーク	10/4	約200
関西学院大学 総合政策学部 村瀬ゼミ 出張授業「フェミニズムから考える女性のエンパワメントとジェンダー問題」	10/25	16(1)
松原高校 1学年「産業社会と人間」発表大会 “コンペティション2023”	2/3	約50 (1)
ワン・ワールド・フェスティバル 出展	2/4、5	約24,500 (7)
シンポジウム「『困難な問題を抱える女性への支援に関する法律』成立～改めて考える“女性支援”とは何か～」(いくの学園と共催)	2/18	80(3)

5. 中国残留邦人等への支援事業

(1) 近畿中国帰国者支援・交流センター (厚生労働省委託事業)

◇クラス状況

*通学学習課程 (春・夏期 9月末在籍者)

クラス	在籍者数
入門日本語	2
集中日本語	7
日本語B	6
日本語C	4
日本語D	7
日本語E	11
日本語F-1	11
日本語F-2	8
日本語G	8
日本語H	9
上級ビジネス日本語	12
日本語能力試験N3対策-A	7
日本語能力試験N3対策-B	5

*通学学習課程 (秋・冬期 3月末在籍者)

クラス	在籍者数
入門日本語	2
集中日本語	7
日本語A	4
日本語B	7
日本語D	9
日本語E	10
日本語F-1	8
日本語F-2	7
日本語G	6
日本語H	9
上級ビジネス日本語	11
日本語能力試験N3対策-A	5
日本語能力試験N3対策-B	6

日本語能力試験N2 対策-A	12
日本語能力試験N2 対策-B	8
日本語能力試験N1 対策	14
観光・医療通訳技術	15
パソコン基礎	6
合 計	152

日本語能力試験N2 対策-A	8
日本語能力試験N2 対策-B	7
日本語能力試験N1 対策	16
観光・医療通訳技術	11
パソコン基礎	6
合 計	139

※遠隔学習課程スクーリング

コース名	延べ出席者数
おしゃべり文法	5
生活場面日本語「学校」	12
生活場面日本語「医療」	8
続・入門日本語文法文型B	12
日本語発音講座	10
「介護職員初任者研修」受講準備	9
読解の基礎	2
漢字学習A	4
漢字学習B	22
消費生活	9
合 計	93

◇その他

- ※特別授業「和太鼓体験」 7/31 参加者：16名
- ※校外学習「造幣博物館」 7/31 参加者：9名
- ※観光・医療通訳技術クラス 特別授業「正倉院宝物～美術工芸品に見る中国と日本の歴史的交流～」 3/5
講師：帝塚山大学客員教授 牟田口章人 参加者：8名
- ※集中日本語クラス就労面接実習 3/13 講師：四天王寺大学助教 富田美幸 参加者：5名
- ※集中日本語クラスハローワーク見学 3/20 参加者：3名

◇地域交流活動・行事

内 容	実施回数	延べ参加人数
朗朗クラブ 和・洋裁Ⅰ	41	101
朗朗クラブ 和・洋裁Ⅱ	42	163
朗朗クラブ 日本語	39	390
朗朗クラブ イキイキ体操	39	180
朗朗クラブ 健康体操	41	336
囲碁・将棋・トランプ	0	0
傾聴会話交流	0	0
社交ダンス	0	0
合 計	202	1170

「囲碁・将棋・トランプ」「傾聴会話交流」「社交ダンス」は新型コロナウイルス感染拡大により実施しなかった。

◇相談事業 相談件数 406件

◇介護支援事業

- ※語りかけボランティア登録人数 77名
- ※語りかけボランティア活動状況

派遣人数	派遣回数	語りかけ対象者数	実施延べ数
3	3	1	3

- ※実施地域 兵庫県
- ※語りかけボランティア養成研修会～写真で巡る中国残留邦人の歴史的背景～
2/25 講師：宗景正 写真家/コスモスの会代表 参加者：13名

◇会議・研修会

- ※全体講師会&中間講師会 全6回
- ※新規非常勤講師オリエンテーション 全2回
- ※研修会 オンライン授業及び著作権法について 4/2 参加者：2名

- *中国帰国者支援・交流センター連絡会議 主催：厚生労働省 出席者：山下つねよ 坂東暁子
- *中国残留邦人に係る近畿ブロック担当者連絡会議 6/15 参加者：44名
- *日中国交正常化50周年記念講演会 主催：八尾市中国帰国者支援交流会 出席者：坂東暁子
- *中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム 11/20 主催：尼崎市 協賛：近畿中国帰国者支援・交流センター
参加者：約130名 参加者：坂東暁子 五十嵐裕
- *中国残留邦人等永住帰国者に対する就職援助事業の運営状況に係る会議（オンライン） 12/15 主催：厚生労働省職業安定局
参加者：中山羊奈 坂東暁子
- *文化庁日本語教育大会（オンライン） 12/17 主催：文化庁 参加者：清島千春 坂東暁子
- *近畿府県支援・相談員合同研修会 主催：兵庫県 出席者：坂東暁子

(2) 大阪市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

<春・夏学期>

クラス	受講者数
ゆっくり日本語B（梅田）	11
ゆっくり日本語C（梅田）	10
ゆっくり日本語D（梅田）	8
朗朗自習パソコン（梅田）	7
日本語A（平野）	7
日本語B（平野）	4
東淀川朗朗日本語	10
合計	57

*講師数 7名 *講師会 年4回実施

<秋・冬学期>

クラス	受講者数
ゆっくり日本語B（梅田）	12
ゆっくり日本語C（梅田）	11
ゆっくり日本語D（梅田）	9
自習パソコン初級（梅田）	6
日本語A（平野）	5
日本語B（平野）	5
東淀川朗朗日本語	8
合計	56

(3) 門真市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

<春・夏学期>

クラス	受講者数
日本語A	1
日本語B	6
日本語C	3
合計	10

*講師数 3名 *講師会 4回実施

<秋・冬学期>

クラス	受講者数
日本語A	1
日本語B	5
日本語C	2
合計	8

◇地域交流事業

*朗朗クラブ 20回 延べ参加者数：75名

*校外学習 6/29 行き先：花の郷花しょうぶ園 参加者：6名

(4) 京都市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

クラス	受講者数
日本語A	5
日本語B	7
合計	12

*講師数 2名 *講師会 2回

◇地域交流事業等

*京都朗朗クラブ 5回 延べ参加者：55名

*醍醐朗朗クラブ 5回 延べ参加者：44名

(5) 宇治市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業

◇身近な地域での日本語教育支援事業

クラス	受講者数
日本語A	5
日本語B	7
合計	12

*非常勤講師数 2名 *講師会 2回

◇地域交流事業等

*京都朗朗クラブ 5回 延べ参加者：46名

*醍醐朗朗クラブ 6回 延べ参加者：44名

(6) 堺市中国残留邦人等に対する地域生活支援事業（堺健老クラブ）

◇身近な地域での日本語教育支援事業

<春・夏学期>

クラス	受講者数
日本語初級1A	9
日本語初級1B	11
日本語初級Ⅱ	6
合計	26

*非常勤講師数 3名 *講師会 年4回実施

*合同クラス&交流事業ボランティア参加：新型コロナウイルス感染拡大により実施しなかった。

<秋・冬学期>

クラス	受講者数
日本語初級1A	5
日本語初級1B	10
日本語初級Ⅱ	5
合計	20

◇地域交流事業他

*校外学習 *新型コロナウイルス感染拡大により実施しなかった。

(7) 大阪府「医療通訳研修会」実施業務

	時間	テーマ	内容	講師	出席者数
1/20	10:30～ 12:30	通訳技術トレーニング①	消化器内科・外科での 通訳演習	インタースクール大阪校 宮地由香 呂仁梅 木村宣子	25名
	13:30～ 15:30	画像・検体・生理検査の基礎知識	検査の内容、結果の見方	松下記念病院 古橋かおり/江後京子 鹿園貴士/西尾由香	33名
1/31	10:30～ 12:30	うつ病（気分障がい）の基礎知識	うつ病の診察/検査 治療/服薬	ほくとクリニック病院 深尾晃三	27名
	13:30～ 15:30	認知症の基礎知識	認知症の診察/検査 治療/服薬	ほくとクリニック病院 中出陽人	29名
2/1	10:30～ 12:30	通訳技術トレーニング②	循環器科での通訳演習	インタースクール大阪校 閻勇 森山美幸 黒岩千尋	23名
	13:30～ 15:30	癌の治療	ステージの分類/3大治療 セカンドオピニオン	石井クリニック 石井豊	27名
2/15	10:30～ 12:30	通訳技術トレーニング③	呼吸器科での通訳演習	インタースクール大阪校 宮地由歌 森山美幸 黒岩千尋	23名
	13:30～ 15:30	感染症～新型コロナウイルス～	新型コロナウイルスについて	石井クリニック 石井豊	31名
2/27	10:30～ 12:30	通訳技術トレーニング④	精神科での通訳演習	インタースクール大阪校 宮地由歌 森山美幸 黒岩千尋	24名
	13:30～ 15:30	手術に関する基礎知識	手術の流れ、手術室	松下記念病院 山口恵理香	37名

IV. 青少年育成事業

1. 青少年活動

(1) こどもミニスクール

◇主催事業

プログラム名	場所	集会日	人数
夏休みこどもミニスクール	シャロン千里	7/29、30	10
冬休みこどもミニスクール	シャロン千里	12/27	5

2. 子ども図書室事業

◇プログラム

プログラム名	回数/年	延ボランティア数	延利用者数
ちゅうりつぷくらぶ	16	45	172

◇グループ活動

グループ名	回数/年	延人数
おはなしの部屋	11	121
ワークショップ	2	32
第一の会	4	58
第五の会	—	—

◇作業会、会議等

活動名	回数	延人数
本の整理	4	11
50周年記念冊子編集作業	8	41
こども図書室話し合い	3	42

3. 子育て支援事業

◇プログラム

プログラム名	回数/年	延ボランティア数	延参加者数
おやこひろば	38	115	618
おやこひろばオープンデー	8	0	139
ママズカフェ	11	—	135
グーテドママン	7	—	50

V. ボランティア養成事業

1. 梅田

◇行事

行事名	回数	延人数
きまぐれバザー	3	59
クリスマス会	1	19

◇作業会

活動名	回数	延人数
発送	11	47
パン販売	10	11
水餃子づくり	2	14
クリスマスバザー仕事会	9	32

◇傾聴ボランティア活動

活動名	回数/年	延人数	
傾聴カフェラベンダーミーティング・勉強会	2	ボランティア	15
訪問傾聴	3	利用者	3
		ボランティア	6
傾聴カフェラベンダー	18	来店者	52
		ボランティア	129

◇グループ活動

グループ名	回数	延人数	グループ名	回数	延人数
みのり会	8	45	スウスの会	11	58
英会話サロン	27	106	いのちを語る会	4	11
聖書を学ぶ会	11	127	絵手紙の会	9	24
手話サークル (knot)	12	217	ベジスープ	10	76
ソープカービングの会	11	56	こども部	7	47
平和環境部	4	17	多文化共生	1	4

2. 千里

◇行事

行事名	集会日	延人数
千里会員集会	6/28	23
千里ガレージセール	10/22	85
千里クリスマス会	12/14	28

◇グループ活動

グループ名	回数/年	延人数	グループ名	回数/年	延人数
会館ボランティア	8	40	使用済み切手整理	11	68
聖書を読む会	10	109	アトリエ「創」	21	137
合唱団	40	1085	ブリジッツ	9	44
ハンドベルクワイア	36	328	文月会	7	53
サロン四季	6	23	生花グループ	44	164

◇趣味のグループ

グループ名	回数/年	延人数
生花を楽しむ会	11	121
水彩画	10	72

◇作業会等

活動名	回数	延人数	活動名	回数	延人数
折姫	12	75	大掃除	1	17
青葉の式	1	5	こども館への引っ越し	3	42
毛糸の帽子を編む会	1	12	ガレージセール準備	3	23

3. こども部

◇活動

活動名	回数/日程	延人数
野外炊さんトレーニング	7/17、1/28	26
アウトドアフェス・チャレンジ広場 出展協力	3/5	3

4. ボランティアの受入れ

◇ボランティア説明

説明会 (延人数)			
回数	ボランティア希望	職員	登録者数
9	10	9	4

VI. 広報

1. 機関紙

(1) 発行の概要

◇回数 6回(5月、7月、9月、11月、12/1月、4月)

◇部数 各1,800部

◇サイズ A4版4ページ

◇配布先 会員・会友、専門学校生、クラス生、講師、賛助会員、賛助会社、各市YWCA、関係団体、講座・集会参加者、大阪市内各女性センター、他

◇広告協力会社 有限会社イースター式典社、株式会社オフィスインテリア、学校法人大阪女学院、株式会社藤木工務店、一般財団法人みのりサポート、大阪中央法律事務所、大阪プライム法律事務所

発行月	特集内容		
	1面	2.3面	4面
5月号	DV被害者支援の新しい在り方 (雪田樹理/弁護士・いくの学園理事長)	大阪YWCA2021年度インターンシッププログラム/第105回定期会員集会報告	待ちに待った入国!留学生の声/バッグウッズチャリティーコンサート
7月号	「復帰」後、50年経つけれど・・・ (國分美生/沖縄バプテスト連盟普天間教会協力牧師)	梅田の会員活動紹介/世界YWCA日集会	2022年度加盟YWCA中央委員会報告—深まる地域Yのつながり
9月号	「ワタシタチハニンゲンダ!」を製作して (高賛侑/作家・映画監督)	支援から協働へ～サバイバーとともに社会を変える～/SDGsって知ってる?	日本語夏期集中コース/夏休み子どもミニスクール
11月号	困難を抱える女性が安心して暮らせる六甲ウィメンズハウス (朴淳用/神戸学生青年センター館長)	ピースフェスティバル「ワタシタチハニンゲンダ!」映画上映&トークセッション/千里の新しい活動場所	専門学校だより/日本語本科卒業生、今こんなことしています
12/1月号	アフガニстанは今 特に女性の人権 (西谷文和/フリージャーナリスト)	クリスマスメッセージ/YWCAフェスタ&ユースギャザリングに参加して	点字子ども図書室/日本語本科卒業生、今こんなことしています/クリスマスバザー報告
4月号	海は全てのいのちの共有財産 ～ストップ!汚染水の海洋放出～ (片岡輝美/会津放射能情報センター代表)	イースターメッセージ/改めて考える“女性支援”とは何か	第106回定期会員集会&会員親睦会/日本語教師汗まみれ

会員・会友・賛助員・寄付・募金等

1. 会員・会友

◇2023年3月末会員数 242名 ◇2023年3月末会友数 6名

2. 賛助員

◇法人 4社

大阪商工会議所、株式会社サンカラー SHIPPING、積水化学工業株式会社、ワツコ株式会社

◇個人 97名

有井由紀子、有田悦子、井口和子、池田洋子、石井由佳子、石神佐知子、植原昭子、内坂晃、内田のり子、宇都宮ゆかり、江尻美穂子、越後靖子、大川哲次、大菅照代、大谷紀子、大野弘美、大平美保子、岡由紀子、落合保子、梶原汎子、片山純子、神屋敷絹恵、加輪上敏彦、川上光子、河原玲青、貴志慶子、北尾敦子、國里順子、熊田多美子、栗本丹志貴、黒田朋子、小池りつ子、河野栄子、河野陽子、小島志佐子、後藤ゆかり、小林千重子、小林直子、西条哲、笹部真樹、ジャクティアニー富士子、関根久子、芹野恵美、高木裕子、高本進、田中佐和子、田中英子、田中義信、田邊昌代、谷川毅、辻朋宏、寺中裕子、都木直文、徳平真弓、豊島博子、中山ゆかり、西名貞子、西由香利、端野昌彦、波田則子、花岡千代美、原口早和子、平櫛圭甫、藤井保男、藤田恭子、藤原智子、藤原裕美子、船越あゆみ、堀西敏子、松江訓子、松下起子、松下宜代、松田慶子、松田真理子、松永茅光、三澤文子、水尚子、南憲明、宗像千代子、望月文子、森口清子、八木みゆき、安原みゆき、山崎久美子、山田洋子、山東史子、山本昌子、吉田佳代子、吉田耕平、匿名 8名

3. 寄付

◇個人寄付者一覧 (大阪YWCA会員を含む)

阿部晴水、有田悦子、有山正俊、栗野陽一、家本陽一、池田洋子、石井由佳子、上野康子、太田三紀子、大畑知子、岡部順子、片山隼亮、金澤定節、川口和子、川崎明恵、川崎仁子、川畑幸子、川邊宣子、北島正子、熊田多美子、西条哲、笹部昌子、鹿野憲一、鹿野幸枝、下司寿子、蔣建業、白川啓子、末吉佳世子、杉本かつ子、鈴木豊子、高野芙美子、高橋和子、瀧本政子、田尻美知、田中義信、谷川いづみ、都木恵子、徳広彩、所佳子、仲上幸子、中山光世、中山羊奈、錦織一郎、西坂恵美、二谷世津子、原口早和子、波留果歩、広瀬圭子、藤井保男、藤岡美智子、藤田恭子、藤本智恵子、古河順子、帆足文子、堀河昌子、前川契子、松下起子、松田慶子、宮崎祐、宮澤玲子、宗像千代子、村井毅、森垣房子、森垣友二郎、森下のり子、森山孝子、山下つねよ、山本淳子、山本宣子、横内いづみ、匿名 9名

◇寄付団体一覧

アトリエ創、生花を楽しむ会一同、学校法人伊丹教会学園二葉幼稚園、NCC-URM委員会、日本基督教団扇町教会、日本基督教団大阪城北教会、日本バプテスト連盟大阪中央バプテスト教会、大阪YWCAクリスマスバザー支援者一同、大阪YWCA親睦会参加者一同、大阪YWCA千里合唱団、大阪YWCA千里合唱団ハンドベルクワイア、大阪YWCA千里ガレッジセール参加者一同、大阪YWCA千里クリスマスミニセール、日本基督教団北千里教会、日本基督教団希望ヶ丘教会、金蘭千里中学校・高等学校、クリスマス会参加者一同、グループパレット一同、コスモ建物管理株式会社、子ども図書室、財務委員会一同、サロン四季、シックスポイント、女性エンパワメント部一同、水彩画を楽しむ会、聖書を読む会、大阪YWCA専門学校職員一同、千里委員会一同、多文化共生ワークショップ担当者一同、点字子ども図書室、日本基督教団豊中教会、豊中千里ロータリークラブ、一般財団法人中山文甫会館、学校法人日本女子大学、配食グループ、文月会、株式会社プランニングキュービック、Bridges、日本基督教団南住吉教会、日本基督教団都島教会

4. 募金

◇募金者一覧

朝岡千晶、朝川晃子、アトリエ創、阿部晴水、荒木慧子、飯田雅子、植木知子、上野康子、内坂建、梅田会員部委員会有志、大杉美耶子、大原千恵子、片桐真佐子、葛良清子、川上悦子、川崎明恵、川崎仁子、木下蘭子、金香百合、坂上信子、坂本富士子、笹部昌子、雀部真理、宍戸百子、白井邦子、白川啓子、末吉佳世子、千里委員会一同、千里クリスマス会参加者一同、高田良子、高野芙美子、高橋和子、瀧本政子、田口美智、谷川いづみ、谷佐代子、辻加代、津戸真弓、鶴崎祥子、都木恵子、徳広彩、所佳子、中島理依子、中山羊奈、西村美恵子、俳句講座受講生一同、配食グループ、原紀子、パレット有志一同、東日本大震災被災者支援担当一同、平野信江、ファンディング支援者、

深堀潤子・正博、藤岡美智子、古河順子、帆足文子、堀河昌子、本田芳子、前川契子、待井瑞季、村松通子、森垣房子、森澤ゆかり、山下つねよ、山本町子、吉田瀧子、吉田信子、留学生を支える有志一同、渡辺成子

5. バザー協力企業・団体

株式会社アドワン、株式会社インターアークアソシエイツ、株式会社オフィスインテリア、株式会社神川工務店、コスモ建物管理株式会社、株式会社ジュノインターナショナル、大寅蒲鉾株式会社、大和ハウス工業株式会社、帝国ホテル大阪、日本生命保険相互会社、伯方塩業株式会社、株式会社阪急阪神百貨店、株式会社藤木工務店、株式会社プランニングキュービック、山久食品株式会社、ユニマットライフ大阪営業所、リーガロイヤルホテル

6. 補助金・助成金(順不同)

助成団体	金額(円)	受入れ先
社会福祉法人吹田市社会福祉協議会	36,000	点字子ども図書室
日本郵便株式会社	910,000	点字子ども図書室
独立行政法人 日本学生支援機構	693,000	大阪 YWCA 専門学校 日本語学科
公益財団法人日本YWCA	200,000	女性エンパワメント部
公益財団法人日本YWCA	653,400	総務
社会福祉法人大阪市社会福祉協議会	300,000	講座部
独立行政法人国立青少年教育振興機構	385,610	講座部

会議等

1. 評議員会

◇評議員 任期 2019年6月22日～2023年6月21日

朝川晃子、井口智子、片山淳子、川崎知子、西村由紀子、平井佐津紀、広瀬圭子、深堀潤子、堀河昌子、松岡美智代、村松通子、森本昌江(6月18日～)、横内いづみ、渡辺成子

◇評議員会の開催

回	開催日	議案
1	2022年6月18日	第1号議案 2021年度事業報告 第2号議案 2021年度決算報告及び監査報告 第3号議案 理事の退任と選任について 第4号議案 評議員の選任について 第5号議案 2022年度4～6月事業報告
2	2023年3月18日	第1号議案 2023年度事業計画 第2号議案 2023年度予算、2023年度資金計画及び設備投資の見込みについて 第3号議案 監事の退任と選任について 第4号議案 評議員の退任について 第5号議案 諸報告

2. 理事会

◇理事・監事 任期 2021年6月12日～2023年6月11日

代表理事：谷川いづみ 理事：小澤裕子、雀部真理、鹿野幸枝、辻川さとみ、津戸眞弓

常務理事：中山羊奈

業務執行理事：中村友美、山下つねよ(～6月28日)、坂東暁子(6月28日～)

監事：坂上信子、三木秀夫(～3月18日)

◇理事会の開催

回	開催日	議案
1	2022年5月26日	第1号議案 2021年度事業報告 第2号議案 2021年度決算報告及び監査報告 第3号議案 2022年度第1回評議員会の開催について 第4号議案 理事の退任と選任について 第5号議案 評議員の選任について 第6号議案 2022年度4～5月事業報告 第7号議案 大規模災害時における帰宅困難者受入についての依頼 第8号議案 大阪YWCA将来計画について
2	2022年7月21日	第1号議案 2022年度6～7月事業報告 第2号議案 2022年度4～6月収支明細報告 第3号議案 大阪YWCA将来計画について
3	2022年10月28日	第1号議案 2022年度下期見通しによる決算見通し 第2号議案 2022年度8～10月事業報告 第3号議案 公印管理規程について 第4号議案 日本語専任講師の募集について 第5号議案 日本YWCA会員研修について 第6号議案 大阪YWCA将来計画について
4	2023年2月9日	第1号議案 2023年度事業計画案 第2号議案 2023年度予算案、資金計画及び設備投資の見込みについて 第3号議案 2022年度第2回評議員会の日程について 第4号議案 2022年度11月～1月事業報告 第5号議案 日本YWCA会員研修報告 第6号議案 諸報告 (1) 専任講師の採用

3. 設置委員会等

委員会名	回数	延出席数	委員会名	回数	延出席数
評議員会	2	32	大阪版編集委員会	6	28
理事会	4	39	梅田会員部委員会	8	61
財務委員会	4	47	千里委員会	11	181
人事委員会	7	56	千里ボランティア委員会	6	49
運営委員会	11	111	千里子育て支援委員会	3	17
運営委員会役員会	11	64	グループ連絡会	1	9
女性エンパワメント部	8	66	東日本大震災被災支援担当	7	48
グループパレット委員会	5	51	指名委員会	3	21

4. 職員・専任講師

◇職員

総幹事 中山羊奈
幹事 川崎(三國谷)仁子、中村友美、坂東暁子、山下つねよ(～6月30日)、藤田実余子、吉本沙矢香
幹事補 奥美和子、桑原静枝、永嶋里香(7月1日～)
非常勤 五十嵐裕、岩井一枝、小野美也子、加藤真弓、金子蘭、岸田尚美、小村龍男、田中直美、常田京子、坂東摩波、藤原裕美子、堀奈央美、松下宜代、山本いち子

◇職員会 20回

◇専任講師 井関幸、氏原庸子、清島千春、佐伯玲子

◇専任講師会 5回

施設維持・不動産管理

◇会館整備

- *1階 事務所 共有パソコンエリア配線工事
- *2階 女子トイレ 水漏れ修理、
- *2階男子トイレ シャワートイレ温水タンクキット修理

世界YWCA、日本YWCA、他市YWCA関係

内 容	日 程	参加者数	内、大阪YWCA
加盟YWCA会長会	4/29	約 40	1
加盟YWCA中央委員会	5/28	70	6
加盟YWCA中央委員会議案説明会	5/16	約 30	2
日本YWCA評議員会	6/16	20	3
日本YWCA理事会、役員会、総幹事会合同会議	2/19	19	3
YWCAフェスタ 2022	11/26	136	10
韓国YWCA主催 アジア地域YWCA会議	6/10	64	3
世界YWCAダイアログ	9/19	約 50	1
国際平和デー・オンラインイベント	9/21	33	4
第 67 回国連女性の地位委員会パラレルイベント	3/6	約 100	1
日本YWCA 鈴木侑子さんをおぼえて	4/9	不明	4
世界YWCA日集会～YWCAはじめの一步～	4/30	16	16
地域YWCA ジェンダーに関する活動交流会	5/28	約 80	5
日本YWCA 近現代史講座	6/25、7/16、8/20	42	3
日本YWCA ユースの支援者支援講座	7/9	16	1
日本YWCA 全国中高YWCA直前ぶちファシリ講座	7/8	17	2
日本YWCA 中高YWCA全国カンファレンス	8/3	144	7
バーチャル de 地域 YWCA 訪問	10/8	29	11
日本YWCAオンライン会員研修	10/10、11/13、1/22	120	12
YM/YW合同祈祷週集会	11/14	45	6
日本YWCA ユース・ギャザリング	11/27	約 30	3
日本YWCA 心地よく自分を表現する一私の伝えたいを伝える、言わない自分も否定しないー	1/29	約 20	1
ひろしまを考える旅 2023	3/25～27	42	2
日本YWCA職員研修会(1～3年目)	6/4、6/25、7/16、7/30	89	9
日本YWCA職員研修会(1～3年目)フォローアップ	8/22、8/26	15	3
日本YWCA幹事研修会(4年目以降)	9/1	9	1
オンライン全国幹事会「全国集会」	2/28	31	8
全国幹事会の在り方検討会	6/10、7/20、9/20	44	6
代表幹事会	1/30、2/24、3/7	12	3
総幹事会	4/27、5/18、6/22、7/27、8/24、9/28、10/27、11/30、12/21、1/25、2/20、3/29	90	12

*日本YWCA理事、財政・会館事業部会、建物管理部会、候補者選考委員会：谷川いづみ

*日本YWCA監事、財政・会館事業部会、建物管理部会：鹿野幸枝

*日本YWCA運営委員（～11月）、人権・ジェンダー委員会：雀部真理

*日本YWCA運営委員（11月～）、人権・ジェンダー委員会：小郷あかり

*日本YWCAネットワーク強化委員会：栗田明日香

*日本YWCA人材養成部会：辻川さとみ

*日本YWCAユースジェンダー小委員会：飯綱萌

*代表幹事：藤田実余子

外部関係団体

一般財団法人大阪市青少年活動協会、一般財団法人大阪府青少年活動財団、青少年育成大阪府民会議、大阪府キャンプ協会、公益財団法人大阪ユースホステル協会、公益財団法人大阪ボーイスカウト振興協会、社会を明るくする運動実行委員会、特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会、公益財団法人大阪府国際交流財団、大阪地域留学生等交流推進協議会、大阪府男女共同参画推進連絡会議、大阪市企業人権推進協議会、社会福祉法人関西いのちの電話、大阪商工会議所、特定非営利活動法人いくの学園、大阪市DV施策ネットワーク会議、NPO 法人全国女性シェルターネット、国際女性年大阪連絡会、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会、日本基督教団大阪教区核問題特別委員会、大阪キリスト教連合会、大阪キリスト教婦人連合会、NCC 都市農村宣教委員会、全国専門学校日本語教育協会、全国専門学校各種学校連合会、大阪府専修学校各種学校連合会、一般財団法人中山文甫会館、国連ウィメン日本協会大阪、憲法 9 条の会・関西、九条の会・おおさか、ヒバクシャ国際署名推進・大阪連絡会、学校法人大阪女学院、認定 NPO 法人大阪被害者支援アドボカシーセンター、社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会